

今月の法話

一、「観音神変力と真言」

二、「佛の眼」

一、観音神変力と真言

私たちの生きる世界は良いことや悪いことが常に移り変わる無常の世です。皆さんが今現在、幸せと感じているならばそれは素晴らしいことでしょう。小さな花が開き、葉についた水滴が太陽の光を受けて輝いている姿を想像してください。何気ない日常的一幕ですが、生命の姿を示した景色であり、私達はその輝きに美しさを感じます。

なぜこのようなことを話すのか。先月、私は危うく命を失いかけてました。信徒の皆様にもご心配をおかけしたと思います。一方で、「観音様に守られているのだから大丈夫」と言われる方も多かったのです。しかし、この世に生まれたものはいずれ死にます。それぞれに宿命があります。寿命もあります。その中で生死を分ける瞬間というのは人によって一度や二度はあることでしょ。あまり経験したくありませんが。今回の私の経験はまさにその紙一重の中の出来事です。奇跡が起き、救われました。意識のない状態だったのですが、不空羅索観音真言を夢の中で唱えていました。すると、右横に白い衣に金の腰巻きをつけた方が立っておられました。私は真言を唱えながら、その方の腰に触れました。すると意識が戻ったのです。二日間、意識が朦朧とした状態だったのです。頭がはつきりとしてから、医師に大変な状態であったことを聞かされました。その後、観音様より頭の中が一杯になるほどの様々なお告げをいただきましたが、これらはまたの機会にゆっくりお話しいたします。

今回の出来事で心から感じたことは「何事があっても、無意識の中でも真言が出てくるくらい毎日唱えて体に染み込ませる」ということです。経を読むことも大事ですが、真言は口癖になるくらい大切にしてください。世の中には不可思議な奇跡があります。死んだらどうなるかと考え込むのではなく、いつ死ぬかわからないからこそ現在の一日一日を大切に生きて、美しいこの世界に生かされている幸せを感じてみてください。早く死にたいとか、もうこんな人生はいらないとか、誰か恨んだり、許せなかったり、イライラが収まらなかったり。それでは全く幸せではなくなってしまう。私たちの学んでいることは広大な宇宙からみればほんの一片のようなものでしょう。理解できず、悩み迷うことは当然なのです。できないことに焦点を当てるのではなく、美しいものや景色、音楽など心の安らげるものや場所を探して心を鎮めることが肝心です。普賢光明寺は皆さんにとってのそのような場になれるようなお寺を目指し、これからも精進していく所存です。また、皆様のお祈りの力が心身に伝わりました。これからも皆様のお力になれるよう精進いたしますのでよろしくお願ひいたします。

皆様の心の一つにして、観音信者としておごりなく、一歩ずつともに歩んでいきましょう。人に無能なものなど一人もいません。生まれてきたものは皆、何かの使命を持って生まれてきます。しかしそれは何なのか知ろうとすること、そのために自分を見つめることが修行なのです。もし、全ての人々が宇宙からの視点で地球を見ることができればその場で争いはなくなりません。そしてそれは未来に必ずあります。まず、私たちの住むこの世界を愛してください。そして生きとし生けるものに感謝し、自身も大切にすることです。共に精進してまいりましょう。

二、佛の眼

寺院の本堂に足を踏み入れた瞬間、私達は仏の眼差しに射抜かれます。如来、菩薩、明王、天。それぞれが異なる眼差しで私達を視てくださっています。心安らぐこともあれば、背筋が伸び、緊張を覚えることもあります。

皆様のお話をうかがうと、当山のご本尊である不空羅索観音様は、見る方の心持ちによってその表情や眼差しの受け取り方が、だいぶ異なるようです。時には厳しく、時には優しい眼差しを私達に向けてくださっています。観音経の一説にある「慈眼視衆生（慈悲の眼をして衆生を視る）」とあります。観音菩薩は「慈悲の眼」をもって私達を見つけてくださっているのです。

しかし、慈悲の目とはどのような眼なのでしょう。仏菩薩の眼には四種類あると言われていいます。金剛眼、奮目、斜怒瞻視、そして慈悲眼（不空羅索神変真言経卷九第十三）。このうち慈悲眼の説明は「堅固不動にして静心。瞬きのない眼」とされます。皆さんがイメージされるような優しく慈愛に満ちた眼差しとは全く異なる記述ですね。しかし、御本尊様の眼差しの意味がわかったのではないのでしょうか。心は金剛のようで、私達を甘やかさないが一時たりと目を離さない。母性というよりは父性に近いのかもしれませんが。観自在菩薩とは「自在に観る」と書きます。どこにいても見守ってくださっている。そのことを意識することが肝心です。

日本にはお天道サマが見ているという言葉があるように、私達人間は常に見られることを意識している生き物です。しかし、いざその眼がなくなつた時にどのように行動するのか。そこにその人の修行の成果が現れるように思います。人間は社会的な生き物で、他者との交流なしに生きていくことはできません。だからこそ他者の眼には過敏に反応します。公衆トイレやデパートなどで人の目の絵を見たことは無いでしょうか？多くの人の人にとっては何んてことのない絵かもしれませんし、なんの意味があるのだろうか？と思われたこともあるかもしれません。しかし、普段善良な人でも魔が差すときがありますよね。この眼にはその魔を払う効果があるのです。また、一方で眼差しは私達の善性や規範を高める効果もあります。

九月の観音祭では観音様の御札を開眼し、皆様にお渡ししておりますが、希望された方には観音様のお写真をお渡ししております。こちらをお祭りするということは、家の中に観音様の眼差しをお招きすることになります。常々、心に観音様を持ちましょうとお伝えしてきましたが、実際に観音様を安置することはその実践になります。遠い昔、仏像が作られるようになったのは、仏様をより想像しやすく、身近に感じられるようにしたためです。お寺に來られた時、ぜひ観音様のお顔をよく見つめてくださいませ。そして、見てくださっているという心を持って日々をお過ごしください。それが何よりの修行です。合掌

南無日月光妙法蓮華經

弁財天と縁起

六月十七日は毎年、弁天様のお祭りを行います。七福神の中で唯一の女性の神である弁財天は素晴らしく美しい天女であり、衆生救済を本願としてそのご利益も素晴らしいものがあります。財力や土地、良縁、芸術、美しさなど多くのものがあります。

十七日を弁天様のご縁日としておりますが、東大寺では三月堂の法要が執り行われる日でもあります。これは偶然かもしれませんが、かつて三月堂には弁財天が祀られており御縁を感じざるを得ません。大黒天をはじめ福徳の神である弁財天様とご縁を結んでいただき、大きな良縁を持ち帰っていただければ幸せも倍増されることと思っております。

*六月のラッキーカーラー、暗剣殺、五黄殺（六月六日〜七月六日） ※一年通してのラッキーカーラーは白色です。
*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

六月のラッキーカーラー 赤 白 緑 暗剣殺 北 五黄殺 南

【お知らせ】

- ① 七月の勉強会の日程：普賢光明寺（鎌倉）七月二日（火）六日（土）七日（日）正午より
横須賀支部（産業交流プラザ）：七月十四日（日）小田原別院：七月二十八日（日）いずれも午後二時より。
- ② 孟蘭盆会施餓鬼不動護摩供養を七月二十一日（日）に厳修いたします。年に一度の供養祭です。一人でも多くの仏様を慈悲の心で成仏へお導きください。詳しくは別紙をご覧ください。
- ③ 滝行の日程：《塩川滝》 六月九日（日） 七月十四日（日） 午前七時集合
《夕日の滝》 六月二十三日（日） 七月二十八日（日） 午前六時集合
天候等で変更になる場合もございますので事前にご確認ください。初めての方でも作法をお教えいたしますので、ぜひ行ってみてください。（行着の貸出も行っています）なお、入行、見学共に同意書の提出が必要となります。
- ④ 仏像彫刻教室：六月九日（日）七月十四日（日）正午より